

## 2017（平成29）年度 京都大学 入試問題 文系 第1問 解答例

### 問一

筆者が休息すら気兼ねする山村に、友人が移住したと葉書で読み、事情も知らずつい贅沢だと思ったが、よもや土地の価値に無知な村人を欺いたとまでは思わないということ。

### 問二

山村の秋の様々な自然からもたらされる、穏かで安らかな雰囲気、漠然と感覚的に受けとめながら、無計画に歩む旅。

### 問三

無傷で美しく見えた柿は、実際にはしみや傷があったが、それを無報酬で譲ろうとする農夫の言葉を聞き、何ら悪意のない、率直で飾らない農夫の心にふさわしい気がしたから。

### 問四

一見何の特徴もない山村は、秋の一時期、優しく高貴な陽光に深く包まれ、色や光の組み合わせが希少な価値のある風景をもたらすが、村人たちはそれに気づかず、偶然村を通過する筆者が、憩う束の間だけに見出し得たと思われたから。

### 問五（文系のみ）

秋の一時期、優しく高貴な陽光の恵みを密やかに受けている村は、色や光の組み合わせによって静かな様相を示すあらゆる事物が過不足のない調和の中にあり、部外者の移住どころか休息すら、風景の調和を乱すと思われたから。

\*理系第一問と共通。ただし、問五は文系のみ。